資料 5 - 2

札幌市一般事務(福祉コース) キャリアラダー(案)

分類	概念	取得すべき専門性	第1段階(初任期)	第2段階(レベルアップ期)	初期・中期)	第4段階(スーパーパイザー、 主に中堅後期以降)
各段階の到達能力イメージ			助言を受けながら、基本的な 事案の対応ができる	・基本的な対応は自立してでき ・助言を受けながら、困難な事 案の対応ができる	・困難な事案への対応も自立 してできる ・後輩職員に対し適切に助言 できる	係員をスーパーパイズすること ができる
一般事務(福祉コース)の基盤となる考え方	一般事務(福祉コース)として 知っておくべき理念	・人権、多様性、自己決定の尊 重・権利擁護 ・倫理観の確立等	福祉分野における各理念について自らの経験も踏まえ説明 することができる	ジレンマや葛藤を自覚しながら、福祉分野における原理や 理念を尊重して、業務を行うことができる	・ジレンマや葛藤と折り合いを つけながら、原理や理念を尊 重して、業務を行うことができ る ・後撃職員に対し福祉分野に おける各理念について適切に 助言できる	原理や理念について、現実に 引きずられることなく、高い理 想や倫理観等に基づいて係員 をスーパーパイズすることがで きる
	一般事務(福祉コース)として 身につけるべき援助関係の土 台	・支援対象者との関係性理解 ・自己覚知 ・感情のコントロール ・自己のメンタルヘルス ・ラボール等			・困難な状況にあっても援助関係や自己の状態等を必要に応じて修正・改善できる・後輩職員に対し援助関係の 土台について適切に助言できる	
支援の過程	インテーク	インテークの意義、目的、方法	傾聴など面接に必要な基本的 技術を習得し、助言を受けな がら、的確に情報を収集できる	まえ、的確に情報を収集できる	・インテークを通じて、援助関 係を円滑に形成できる ・後輩職員と一緒に面談を行 い、支援することができる	インテークについて、係員を インテークについて、係員を スーパーバイズすることができ る
	アウトリーチ、スクリーニング	・アウトリーチやスクリーニング の意義、目的、方法 ・アウトリーチを必要とする対 象 やニーズの掘り起こし		援助が必要な対象者に気付き、発見できるようになる	・援助が必要な対象者を見逃さず必要な支援につなげることできる。 ・後輩職員に対しアウトリーチやスクリーニングについて適切に助言できる	イズすることができる
	アセスメント	アセスメントの意義、目的、方法	助言を受けながら、収集した情報をもとに、対象者が置かれている状況を適切に見立てることができる	収集した情報をもとに、対象者 が置かれている状況を適切に 見立てることができ、絶えずそ の見立てが有効であるか自省 することができる	用できるレパートリーを多く	アセスメントについて、係員を スーパーバイズすることができ る
	記録	・個人情報の管理記録方法、 文体(叙述体、要約体、説明体 等) ・項目式(フェイスシート等) ・図表式(ジェノグラム、エコ マップ等)	・助言を受けながら、個人情報 を管理し、主観的事実、客観 的事実、アセスメント、援助方 針等を区別して記録すること ができる いできる受けながら、ジェノグラ ムやエコマップ等を作成できる		実、客観的事実、アセスメント、援助方針等を区別し、わかりや	
	ブランニング、支援実施	ブランニングや支援の意義、 目的、方法		対象者に適合した援助方針を 立て、同意に基づいた支援を 行うことができる	・困難な事例においても活用で	ブランニングに基づいた支援 について、係員をスーパーパ イズすることができる
	面接技術	・面接の意義、目的、方法 ・面接の場面と構造 ・面接の各種技法		法を意識しながら面接をすることができる	・援助関係や面接の目的に応 して活用できる面接技法のレ パートリーを多く持っている ・後輩職員に対し面接技術に ついて適切に助言できる	面接技術について、係員を スーパーバイズすることができ る
	カンファレンス、事例検討	・カンファレンスや事例検討の 意義、目的 ・カンファレンスや事例検討の 進行	ンスや事例検討を運営するこ	カンファレンスや事例検討を運営することができる	・カンファレンスや事例検討を 円滑に運営できるほか、事例 分析も行うことができる ・後輩職員に対しカンファレン スや事例検討について適切に 助言できる	カンファレンスや事例検討について、係員をスーパーバイズすることができる
	モニタリング、ヒューマンエラー の活用	・モニタリングの意義、目的、 方法 ・効果測定 ・セューマンエラー(失敗)の共 有、活用の意義、目的、方法	に基づく支援を行うことができているかどうか対象者と確認し、評価と再アセスメントを行うことができる・支援に係るヒューマンエラー	・支援に係るヒューマンエラー (失敗)について、課題や対応 策とともに、速やかに周囲と共	できるレパートリーを多く持っている いる ・後輩職員と一緒に援助方針に 基づく支援を行うことができてい るか確認することができる ま物になると。	・モニタリングやヒューマンエ ラー(失敗)の活用について、 係員をスーパーパイズすること ができる
	支援の終結、事後の評価・ケア	支援の終結と事後の評価やケ アの目的、方法		成できたかどうかを評価し、再	・支援終結後に関わることができる社会資源等の情報を豊富 に持っており、再発防止を確保	アについて、係員をスーパー

分類	概念	取得すべき専門性	第1段階(初任期)	第2段階(レベルアップ期)	初期・中期)	第4段階(スーパーパイザー、 主に中堅後期以降)
スーパーゼジョン とコンサル テーショ ン	スーパービジョンの意義、目的、方法	・スーパーバイザーとスーパー バイジーの関係	・自身が困っていることに気づき、係長等に相談することがで	援助関係とスーパービジョン関係の関係性を自覚し、支援に	・ピア・スーパービジョンを主宰 できるようになる	
		・スーパービジョンの機能 ・スーパービジョンの形態と方 法	きる・スーパーバイズを踏まえて、業務をすることができる	活用できる	・後輩職員に対しスーパービジョンの活用について適切に 助言できる	機能を提供することができる
	コンサルテーションの意義、目的、方法	・コンサルタントとコンサル ティーの関係 ・コンサルテーションの方法	助言を受けながら、コンサル テーションを活用し、得られた 情報を参考に、業務をすること ができる	コンサルテーションを活用し、 得られた情報を参考に、業務 をすることができる	・コンサルテーション先となりうる情報を豊富に持っており活用できる・後輩職員に対しコンサルテーションの活用について適切に助言できる	コンサルテーションを有効に活用するよう、係員をスーパーパイズすることができる
ネットワークの形成	ネットワーキング	・ネットワーキングの意義、目 的、方法、セーフティネットの構 築とネットワーキング ・家族や住民、サービス提供 者間のネットワーキング ・重層的な範囲(ミクロ・メゾ・マ クロ)におけるネットワーキング ・多様な分野の支援機関との ネットワーキング	近な地域において活動や相談 ができる場等とのネットワーク を活用して支援することができ	ネットワークを活用して、有効	・対象者を取り巻く課題解決の ため、身近な地域において活動や相談ができる場等との既存のネットワークを活用して有 初な支援をすることができ、 来も見据えて、新たなネット ワークを構築することもできる ・後輩職員に対しネットワーキ ングについて適切に助言でき	ネットワーキングについて、係 員をスーパーバイズすることが できる
	コーディネーション	コーディネーションの意義、目的、方法	助言を受けながら、対象者本 人の視点に立ち、尊厳が保持 されるよう、多職種協働やサー ビスの調整といったコーディ ネーションの基本を行うことが できる	対象者本人の視点に立ち、尊厳が保持されるよう、多職種協働やサービスの調整といったコーディネーションにより、質の高い支援を実現することができる	尊厳が保持されるよう、多職種 協働やサービスの調整といっ	
社会資源	社会資源の活用・調整・開発	・社会資源の活用、調整、開発 の意義、目的、方法 ・ニーズの集約、提言、計画策 定、実施、評価	に必要な社会資源を発見し、	支援対象に必要な社会資源を 十分に活用することができる	る ・不足する社会資源を課題として認識し、開発などの解決策を検討し実施することができるとができ、後輩職員に対し社会資源の活用等について適切に助言できる	について、係員をスーパーバ
政策立案	市における福祉課題の解決	社会の変化や複雑な福祉ニー ズ等に即した政策立案能力	助言を受けながら、福祉現場 の経験から実感した不足する 社会資源、社会の変化、福祉 ニーズ等に基づく施策化の必 要性に気が付くことができる	不足する社会資源、社会の変化、複雑化する福祉ニーズに対応した解決策を福祉現場の経験を踏まえ検討できる	・市における福祉課題解決の ための政策を既存事業の活用 や再編の視点を含め、福祉現 場の経験や他都市の事例等 の研究を踏まえ立案できる ・後輩職員に対し政策立案に ついて適切に助言できる	・政策立案にあたって、係員を スーパーバイズすることができる も市における福祉課題の解決 のための効果的な政策を中 期的視点から立案し実現のた めに必要な調整をすることが できる
総合的かつ包括的な支援	総合的かつ包括的な支援の考え方	・多様化、複雑化した生活課題 への対応 ・今日的な地域福祉課題への 対応 ・分野、領域を横断する支援	助言を受けながら、多様化、複雑化した生活課題あるいは今日的な地域福祉課題という視点で、対象者を総合的かつ包括的にとらえて、支援をすることができる	あるいは今日的な地域福祉課題という視点で、従来の枠組みで対応できない課題を総合	・対象者が暮らす地域を基盤 に個別課題を超えたひろがり とつながりの視点で、総合的 かつ包括的な支援に活用でき るアイディアを多く持っている ・後撃職員に対し総合的かつ 包括的な支援について適切に 助言できる	総合的かつ包括的な支援について、係員をスーパーパイズ することができる
	家族支援	・家族が抱える複合的な生活 課題への対応 ・家族支援の目的、方法	助言を受けながら、対象者の 家族を多角的にとらえて、事例 に応じて構造や関係を理解し 支援をすることができる	対象者の家族を多角的にとら えて、事例に応じて構造や関 係を理解し支援をすることがで きる	・対象者の家族を多角的にとら えて、事例に応じて構造や関 係を理解・分析し、予防的支援 のために活用できるアイディア を多く持っている・ 後輩職員に対し家族支援に ついて適切に助言できる	スーパーバイズすることができ
	地域支援	- 地域が抱える課題への対応 ・多機関協働 ・地域住民との協働 ・地域アセスメント	助言を受けながら、(対象者の 居住する)地域課題や特性を 分析することができる	(対象者の居住する)地域課題 や特性を踏まえて、地域の力 を活用し又は引き出す支援を することができる		
	非常時·災害時支援	・非常時や災害時の生活課題 への対応 ・非常時や災害時における支援の目的、方法	助言を受けながら、非常時や 災害時の生活課題や心理的 課題を理解し、支援することが できる	非常時や災害時の生活課題 や心理的課題を理解し、心理 的ファーストエイド等の観点から支援することができる		非常時や災害時の支援について、係員をスーパーパイズすることができる
リスクマネジメント	福祉分野におけるリスクマネジメント	・リスクマネジメントや危機対応の意義、目的、方法、予防的対応	助言を受けながら、リスクが生 じる可能性を意識でき、周囲に 支援を求めることができる		・リスクが顕在化した状況を迅 速かつ的確に把握し、組織と しての対応を図ることができ、 予防的対応も予め実施するこ とができる・ 後輩職員に対しリスクマネジ メントについて適切に助言でき る	リスクマネジメント、危機対応 について、係員をスーパーバ イズすることができる
自己課題/テーマ設定枠	上記項目以外で、自らのキャリアの中で向上させていきたい 能力や専門性がある場合、そのテーマを自ら設定するもの (例:心理分野) ※第1段階~第4段階までの 到達能力イメージは一般的な 例 ※複数のテーマを設定する場		助言を受けながら、基本的な 事案の対応ができる	・基本的な対応は自立してできる ・助言を受けながら、困難な事 案の対応ができる	・困難な事案への対応も自立 してできる ・後輩職員に対し適切に助言 できる	係員をスーパーバイズすること ができる